

年 度 評 価 シ ー ト

課名 観光交流文化局文化振興課

施設の名 称 静岡市美術館	指定管理者名 (公財) 静岡市文化振興財団		
1 履行状況			
<p>(1) 目標達成</p> <p>ア 入館者数</p> <p>目標値 30 万人 (5 年間の累計総入館者数 150 万人)</p> <p>実績値 286,128 人 (前年度 202,136 人)、達成率 95.4% (前年度比 141.6%)</p> <p>【参考】令和元年度 (コロナ前) 実績値 255,328 人、達成率 85.1%</p> <p>イ 展覧会事業における来場者満足度 (年間平均)</p> <p>目標値 85%、実績値 96.0% (前年度 95.5%)、達成率 113% (前年度比 100.5%)</p> <p>(2) 施設利用状況</p> <p>入館者数 286,128 人</p> <p>展覧会来場者数 133,039 人</p> <p>(3) 人員配置状況</p> <p>館長 1 人、副館長 2 人</p> <p>総務課長 1 人 (副館長兼務)</p> <p>総務課 : 正規職員 3 人、契約職員 1 人、派遣職員 1 人</p> <p>学芸課長 1 人</p> <p>学芸課 : 正規職員 9 人 (学芸員 7 人、広報 2 人)、臨時職員 1 人</p> <p>(4) 業務実施状況</p> <p>静岡市美術館条例第 11 条に規定する各種事業について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。</p> <p>主な事業と参加者数は以下のとおり。</p> <p>ア 展覧会事業</p>			
展覧会名	観覧者数	目標	達成率
「英国キュー王立植物園 おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり」	14,632人	17,500人	83.6%
「さくらももこ展」	49,369人	23,000人	214.6%
「カンパール美術館所蔵 ブルターニュの光と風」展	15,747人	20,000人	78.7%
NHK大河ドラマ特別展「どうする家康」	21,201人	24,000人	88.3%

「高畑勲展 —日本のアニメーションに遺したもの—	32,090人	50,000人	64.2%
-----------------------------	---------	---------	-------

イ 展覧会関連事業

催事名	実施回数	参加者数
ミュージアム教室	151回	2,807人
展示解説	21回	421人
講演会、スライドトーク等	19回	2,759人

ウ 交流事業

催事名	実施回数	参加者数
Shizubiシネマアワー	3回	134人
暦とあそぶワークショップ	2回	51人
プレゼントワークショップ（1回中止）	3回	42人
しずびチビッコプログラム（1回中止）	4回	75人
しずびオープンアトリエ	2回	284人
おうちで！しずびオープンアトリエ	2回	55人
佐内正史写真展 静岡詩	1回	66,176人
佐内正史写真展「静岡詩」関連イベント	1回	85人
Shizubi Research+「倉俣史朗と静岡」 連続トークイベント	3回	70人
Shizubi Research+「倉俣史朗と静岡」 パネル展示	1回	38,203人

エ 連携事業

催事名	実施回数	参加者数
生涯学習センター等との連携事業等	18回	2,053人
静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業	3回	108人

【検証・分析等】

事業全体を通じて、施設の設置目的及び基本理念を理解、達成するために明確な事業方針を定め、新たな試みにも積極的に取り組んでいる。

ア 展覧会事業

西洋絵画、漫画、歴史、アニメーションなど幅広い分野の展覧会5本を開催した。

「おいしいボタニカル・アート展」では、植物画の魅力と英国の食文化の歴史を食文化という親しみやすい切り口で紹介した。

「さくらももこ展」では、本市出身の漫画家であるさくらももこの多彩な創作活動を紹介するとともに、イラスト入りの静岡市ノベルティをエントランスに展示したり、マンホールマップを制作したりと静岡での活躍を館独自に補足したことが評価できる。

「ブルターニュ展」では、図録の翻訳にも加わり学芸面で巡回展に貢献するとともに

に、ブルターニュ地方の地理的特色を解説する鑑賞ガイドを制作するなど、展覧会内容をわかりやすく伝えるよう努め、フランス美術の幅広さを示した。

「どうする家康展」は、構成、出品交渉や図録の執筆・編集に参画した共同企画展である。これまで築いてきた久能山東照宮や臨濟寺、清見寺等との信頼関係により、静岡市内所在の文化財を活用するとともに、過去の指定文化財の公開実績により、開館以来最多となる国宝6点、重要文化財45点の公開許可も得られ、出品内容を充実させることができたことは、当指定管理者の培った経験やネットワークの賜物であると評価している。

「高畑勲展」は、アニメーションの制作工程を解説した鑑賞ガイドを独自に制作し、内容理解に繋げた結果、アンケートの全体評価でも高い満足度(96.8%)を得ることができた。

イ 展覧会関連事業

展覧会の内容と合わせて各分野のスペシャリストである講師の講演会、静岡市美術館学芸員によるスライドトーク等を実施し、「美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民の美術文化を振興することを目標とする」という静岡市美術館の設置目的が達成できた。

特に「さくらももこ展」では漫画家の水沢めぐみ氏と集英社の編集者との対談、「高畑勲展」ではスタジオジブリのプロデューサーによる対談など、著名な講師の招へいにより、県外からも多数の参加申込みを受けるなど、本市で行う事業の注目度を高められた。

ウ 交流事業

交流(教育普及)事業は、学校や生涯学習センターからの団体解説など鑑賞教育と、多彩なワークショップシリーズを柱にした実技体験を中心に、自宅で楽しめる「おうちで!しずびオープンアトリエ」に新たなプログラムを追加するなど、美術への興味関心を高める機会の提供に努めた。

また、美術館の調査を出発点に、関係者や研究者、市民から得られた情報も生かして開かれた研究を目指す新シリーズ「Shizubi Research+」を立ち上げるといった、新たな試みも評価できる。

エ 連携事業

「おいしいボタニカル・アート展」に関連したサイエンスカフェ(静岡科学館)や、「ブルターニュ展」に関連したミュージアムコンサート(静岡音楽館)を各館の専門性を活かして連携して開催することで、静岡市美術館に来館したことがない市民が足を運んだり、静岡市美術館への来館者が他の2館にも足を運ぶ機会を創出することができた。

【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

【具体的な意見・要望の内容と対応状況】

意見等：虫眼鏡を貸してほしいという要望があった。

対応：貸出用の拡大鏡シートを貸出すことでサービスの向上を図った。

【検証・分析等】

利用者からの意見・要望に対しては概ね適切な対応がとられており、良好な対応がなされているといえる。

【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

展覧会観覧者に対して事業ごとのアンケートを実施し、満足度調査を行った。

【調査結果】

展覧会への満足度

「満足」「ほぼ満足」の回答割合（全展覧会平均）：96.0%

- ・おいしいボタニカル・アート展：96.5%
- ・さくらももこ展：96.3%
- ・ブルターニュ展：94.6%
- ・どうする家康展：95.7%
- ・高畑勲展：96.8%

【検証・分析等】

全展覧会の平均満足度は96.0%（前年度95.5%）であり、目標値である満足度85%を大きく超えたことは高く評価できる。すべての項目が高い水準であり、良好な評価を得ている。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(2) 市民アンケート

【調査結果】

回答者総数6,021人、当該施設を知っていると回答した人：4,330人（71.9%）

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(3) その他の調査

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査した。

【調査結果】

- ・「職員の対応」91.9%
- ・「清掃、整理整頓」93.5%
- ・「案内表示、掲示板」90.3%

- ・「開館時間・休館日」 91.6%
- ・「空調・明るさ」 88.9%

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

4 指定管理者の経理状況の評価

【収支状況】

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

【検証・分析等】

指定管理業務についての収支状況については、支出超過が見られるが、これは物価高騰等に伴う事業費の増大と、給与改定による人件費の増額によるものである。本施設単体の収支としては赤字状態であるが、静岡市文化振興財団全体としての財政基盤は強固なものであり、今後の運営に大きな懸念要素はないと考えられる。また、開催した展覧会において、新聞社・テレビ局等マスコミ各社から出資共催を得るなど、限られた予算の中で効果的な事業実施に努めており、今後も堅実な運営に期待したい。

【確認結果】

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

【検証・分析等】

指定管理業務全般について、業務仕様書や事業計画書に従い良好に実施されている。

事業については、展覧会事業を柱として関連事業及び交流事業、連携事業を積極的に行なわれた。特に学芸員の知識や経験を活かし、各展覧会で鑑賞ガイドの制作など独自の取組みを実施したり、静岡市美術館としてこれまでに構築したネットワークをもとに出品内容の充実を図ったりしたことは大いに評価できる。こうした取組みの成果として、観覧者の満足度も非常に高くなった。

3館連携事業は、静岡市美術館に初めて来館するきっかけとなっているほか、静岡市美術館を訪れた方が静岡科学館や静岡音楽館を訪れることもあり、中心市街地の回遊性を高めると同時に賑わいの創出にも貢献したと言える。

また、年間を通じて、事業内容の充実のみならず、常に幅広い層への広報手段を検討し、新しい取組みも積極的に実施していることを評価したい。「芸術文化の交流拠点」として、今後もより多くの人々に静岡市美術館の魅力を発信し、人々が芸術文化の魅力に触れることができるよう様々な工夫を行っていくことを期待する。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。